

次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業における事業計画書

岐阜県立飛騨神岡高等学校

	研 究 内 容
1 年 次	<p>(1)「情報技術基礎」におけるリテラシーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人の一般教養としてのワードプロセッサ、表計算ソフトの使い方に加えてインターネットブラウザ、メールソフトの基本操作を習得させる。 ・ネットワーク社会のモラルの大切さ、ネット社会の危険性について理解させる。 <p>(2)「産業社会と人間」における情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する学習はこれまで話を聞いたり、実際に見学したり、資料を見せるなどの方法によっていたが、インターネットで調べるという方法もあることを体験を通じて学ばせる。 ・「職場体験実習」に関する情報をインターネットで得る。 <p>(3)「オーラルコミュニケーション」における学校間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校とテレビ会議で結んでALTを交えた合同授業を試みる。 <p>(4)図書館の情報を検索する。</p> <p>(5)家庭との連絡手段に電子メールを活用できないか検討する。</p>
2 年 次	<p>(1)「家庭一般」における情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭にもパソコンが普及し、インターネットのできる家庭も多くなった。情報技術基礎の内容を発展させることで快適な家庭生活に役立てる。 ・インターネットを利用して衣・食・住に関する情報を入手し、学習に役立てる。 <p>(2)「野外活動」における情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然を相手にする野外活動は気象情報の把握が重要である。インターネットを利用して天気図や局地的な予報を入手し安全な活動に役立てる。 ・釣りや登山などのテーマについて、他校とメールで情報交換を行う。 <p>(3)修学旅行の事前学習としてインターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地の地理、風土を調べたり、見学場所や施設の情報を得る。 ・出発前の気象情報の把握 <p>(4)その他、センターに蓄積された教材資料の活用と提供。</p>
3 年 次	<p>(1)「課題研究」における情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料収集にインターネットや電子メールも使えるようにする。 ・共通の研究テーマをもつ他校生徒とのテレビ会議による情報交換。 ・プレゼンテーションソフトやビデオ機器を用いて研究成果の発表とまとめを行い、次年度に生かす。 <p>(2)科目「時事問題」におけるVODデータベース素材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目では生きた教材資料の蓄積が大切であるがまだ十分ではない。これを構築することで自校だけでなく他からの要望にも応じられるようにする。 <p>(3)進路情報の入手にインターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の希望する進路先（企業・学校等）情報の入手にインターネットを活用する。また校内のオープンスペースにパソコンを設置して、自ら進路情報を検索できるようにする。